

# サンディンググループが取り組んだ 2014年度「4つのGreen」具体例

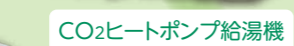
## Green Technology

サンディンググループが地球環境保全のため、「冷やす・暖める」をコアに製品技術開発で重点的に取り組んでいるのは、自然冷媒技術とヒートポンプ技術による環境負荷の低減です。2014年度も、国内最少の消費電力量を実現した自動販売機など流通システム事業を中心に、自然冷媒である二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を使用したコンプレッサーを搭載した製品、システムを積極的に市場投入しました。

自動車機器システム事業においても、世界中の自動車メーカーの厳しい環境性能要求に対応し、電動コンプレッサーをはじめとした環境製品により、車両の環境負荷低減に取り組んでいます。



電動コンプレッサー



CO<sub>2</sub>ヒートポンプ給湯機



超省エネ自動販売機



CO<sub>2</sub>コンプレッサー搭載ショーケース

## Green Management

環境活動に関する約100項目の質問への回答に基づく「環境活動レベル評価」を拠点別に行い、各拠点の活動を「S」から「C」まで4つのランクに分けて評価しています。2014年度は、国内対象13拠点中10拠点、海外対象27拠点中5拠点が、高いレベルで環境PDCAサイクルが実施されていることを示す「A」以上の評価となりました。今後、海外を重点的に活動を強化していきます。

環境人材の育成に関しては、社員に対して「eco検定(環境社会検定試験)®」の受験を2009年度より推奨しています。2014年度はサンデンおよび関連会社の社員を合わせて163人が合格し、累計の合格者(エコピープル)数は1,827人となりました。また、2014年度下期から新たに管理職向けの環境教育をスタートし、海外拠点を含めて約380人が受講しました。



タイ工場での環境教育



赤城事業所での環境教育

## Green Process

サンディンググループは、「中期環境基本方針」の中で、2018年度を目標年とした環境負荷低減目標を設定して取り組んでいます。目標を「売上高原単位」で設定して体質の強化を図っていますが、企業成長による売上増により、目標を達成しても、エネルギー使用量、CO<sub>2</sub>排出量の総量は前年を上回る結果となっています。そのため「中期環境基本方針」初年度を終えるにあたり、より積極的な地球環境保全活動を行うため、2015年度は売上高原単位に加えて、総量で前年を上回らないことを新たに目標として設定しました。中期的な総量削減目標も設定していきます。

また2014年度は、国内拠点では省エネ診断等を活用した先進事例の構築、MFCA(マテリアルフローコスト会計)

の浸透による廃棄物排出量削減の取り組み強化などを実施、海外拠点に対しては、あらためて現地での環境活動の確認と指導を開始しました。「あらゆるムダの徹底排除」により、すべての業務プロセスでの効率化を進め、環境負荷低減による社会貢献を行っていきます。

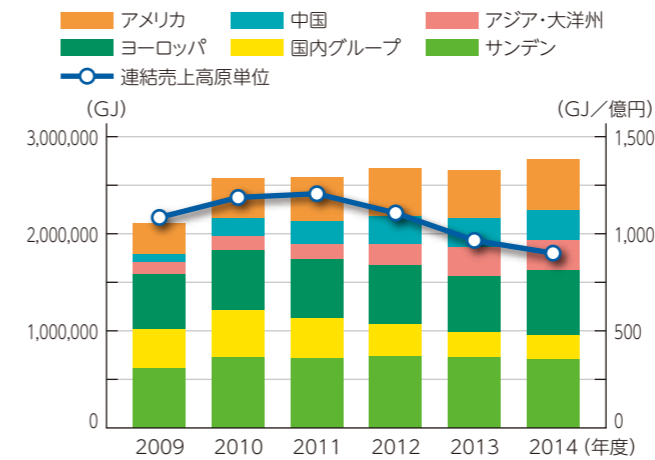


省エネ診断

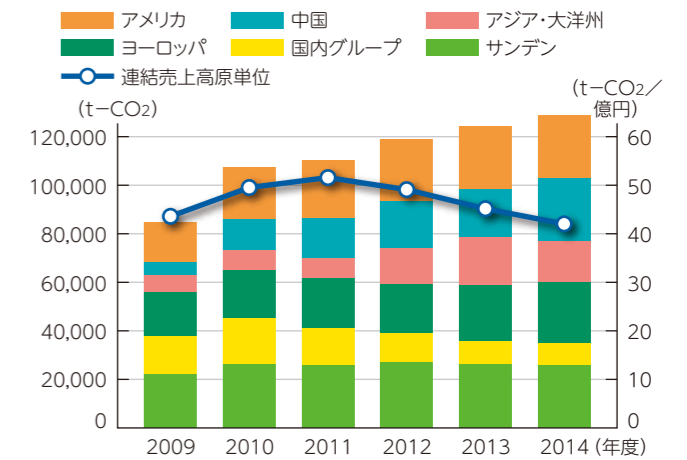
MFCA エキスパート教育

### 2014年度 サンディンググループ環境パフォーマンスデータ

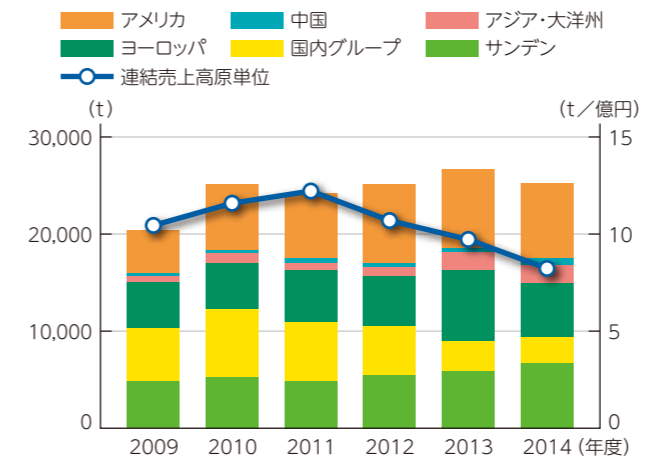
#### ■ エネルギー使用量 地域別実績推移



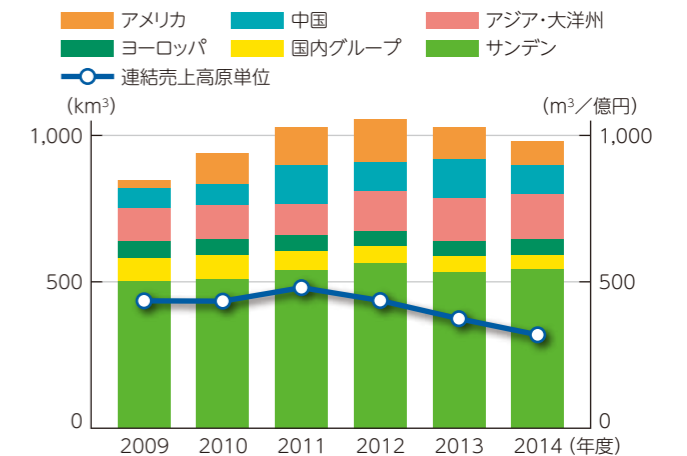
#### ■ CO<sub>2</sub>排出量 地域別実績推移



#### ■ 廃棄物排出量 地域別実績推移



#### ■ 水使用量 地域別実績推移



## サンディンググループが取り組んだ 2014年度「4つのGreen」具体例

### Green Communication

2014年12月に東京ビッグサイトで行われた「エコプロダクツ2014」に4年連続で出展しました。サンデンフォレストの間伐材をふんだんに使用したブース内に環境製品を展示し、サンデンフォレスト・赤城事業所のコンセプトである「環境と産業の矛盾なき共存」を表現しました。サンディンググループのメッセージを伝えるこの展示は「エコ&デザインブース大賞 特別賞」を受賞しました。



また2014年10月に韓国平昌（ピョンチャン）で開催された生物多様性条約締約国会議（COP12）に、経団連視察団メンバーとして参加し、サンデンフォレスト・赤城事業所の取り組みを発表しました。



フランスのSanden Manufacturing Europe S.A.S. (SME) では、「廃棄物ウィーク」を開催しました。様々な展示やフォーラム等を行い、地元小学生を含む社内外の多くの人に廃棄物削減の取り組みについての理解を深めてもらいました。



SME  
＜フランス＞

イタリアの SandenVendo Europe S.p.A. (SVE) では「Green Children Project」として、社員が地元小学校へ出向いて環境授業を行うなどの活動を行いました。次世代を担う子どもたちへの環境教育は、非常に重要であると考えています。



「低炭素杯2015」のファイナリストとしてサンデンフォレストの取り組みを発表



SVE  
＜イタリア＞

日本での環境教育はP18「サンデンフォレスト・赤城事業所が『体験の機会のある場』に認定」をご参照ください。国内外各地での環境関連イベントや地域清掃活動にも積極的に参加しています。

環境（エコ）フェスタ  
たいとう  
＜東京＞



ポーランド工場の  
地域清掃活動



大江戸  
清掃隊  
＜東京＞



伊勢崎地区環境美化活動＜群馬＞



赤城大沼環境美化活動＜群馬＞

Web    
<http://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=17>

### 目標と実績

2018年度を目標年度とする「中期環境基本方針」をもとに設定した2014年度の環境目標に対する活動結果についてご報告いたします。

※評価の基準（自己評価） A：達成 B：概ね達成 C：不十分

基本戦略	2018年度中期目標	2014年度環境目標	2014年度活動結果	評価*
Green Technology	製品環境指標を量産機すべてで達成（目標値は製品別に設定）	製品環境指標0.9以下各事業重点機種で達成する	●重点機種のすべてで0.9以下達成	A
		自動販売機エコリーフ環境ラベルを取得する	●ヒートポンプ機 新規に37機種登録	A
		革新技術によって製品使用時の負荷を低減する	●電動コンプレッサーの拡販 ●PM2.5対策フィルター付き超軽量HVACユニットを開発、市場投入 ●店舗全体での省エネ率20%を達成 ●国内最小消費電力量のヒートポンプ缶飲料自動販売機を開発、市場投入	A
Green Process	環境負荷低減 ●エネルギー使用量15%以上 ●廃棄物排出量15%以上 ●水使用量5%以上 ●有害化学物質排出量5%以上 （すべて売上高原単位） （2013年度実績比）	CO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位を2013年度比3%削減する	<連結> ●CO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位 -8% <日本国内> ●CO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位 -13%	A
		廃棄物排出量売上高原単位を2013年度比3%削減する	<連結> ●廃棄物排出量売上高原単位 -17% <日本国内> ●廃棄物排出量売上高原単位 -10%	A
		<サンデン><国内グループ各社>再資源化率99%以上（ゼロエミッション）を継続する	●国内ISO14001取得全生産事業サイト（8サイト）で、再資源化率99%以上（ゼロエミッション）を継続	A
		水使用量売上高原単位を2013年度比1%削減する	<連結> ●水使用量売上高原単位 -15% <日本国内> ●水使用量売上高原単位 -10%	A
		<サンデン>有害化学物質排出量売上高原単位を2013年度比1%削減する	<サンデン> 有害化学物質排出量 -46% （PRTR対象物質）	A
		<サンデン>輸送でのエネルギー使用原単位を1%以上削減する（前年度比）	<サンデン> ●エネルギー使用原単位前年度比+6.9% 店舗用ショーケースで大型機種の販売が伸びたことによる輸送効率低下のため、原単位悪化となり改善に取り組んでいる	C
Green Management	環境活動レベル全サイトA以上	SCOPE3算出を標準化する	●対象全カテゴリーで算出し、標準化	A
		環境方針の展開と環境マネジメントシステムを強化する	●環境大会、環境朝礼のグローバル発信強化 ●中央環境委員会、環境戦略会議の開催 ●海外拠点現地指導の実施 ●国内各拠点の内部環境監査の実施 ●国内グループ環境推進担当者会議の開催 ●事業所環境推進会議の開催	A
		環境教育の実施・啓発を行う	●eco検定受験の推奨（163名合格） ●ISO14001内部監査員教育の実施 ●管理職層を主対象とした環境教育を、国内各事業所のほか、中国、東南アジアの各拠点で実施	A
		環境活動レベル評価の拠点へフィードバックする	●国内外拠点へ評価結果のフィードバックを実施し、各拠点で改善に取り組む	A
Green Communication	外部評価Aレベル	環境展示会へ出展する	●エコプロダクツ2014出展 エコ&デザインブース大賞特別賞を受賞	A
		環境国際会議へ参加する	●韓国平昌で行われた生物多様性条約締約国会議（COP12）に、経団連自然保護協議会のメンバーとして参加し、事例発表を実施 ●名古屋で行われた「国連持続可能な開発のための教育の10年」に参加	A